

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会いたします。

まず、教育委員会の活動状況について、事務局から報告をお願いします。

山下教育政策課長。

○山下教育政策課長 それでは、教育委員会の活動状況についてご説明させていただきます。

教育委員会の活動状況、令和2年8月分をご覧ください。

表にございますとおり、左からご活動の日時、会議・行事等、場所、出席者を記載しており、上段の8月3日の教育政策会議をはじめ、8月中の活動内容を記載しております。詳細につきましては、資料のとおりでございます。

以上、簡単ではございますが、ご説明とさせていただきます。

○奈良教育長 続きまして、委員の活動について、所感の報告をしたいと思っております。

それでは委員を代表して、近藤委員から報告をお願いします。

○近藤委員 来年度の中学校における使用教科書の2日間日程での教科書採択においては、担当課の皆様、並びに諸事日程の調整にかかわっていただいた方々には深く感謝申し上げます。

コロナ禍の影響もあり、教科書選定委員会での審議もご苦労をおかけする中、十分な審議でのさまざまな観点からの答申資料をいただき、それをもとに新学習指導要領を、またH i r a k a t a 授業スタンダードに即した当市の生徒たちに一番ふさわしい教科書が採択されたことに感謝いたします。

同担当課におかれましては、修学旅行実施についての8月18日の大阪府教育長の見解も鑑み、感染拡大の現状、他市状況とさまざまなデータを提供いただき、委員会としての生徒、保護者、校長先生方のさまざまな反応や思いも想定しつつ、中学3年、小学校6年の修学旅行は期間の短縮を含め、罹患対策の徹底を伴う実施で、また他学年の宿泊を伴う行事についても中止、延期を決定するには、楽しみにしている顔も思い浮かべつつの安全安心を担保するための苦渋の決定であり、担当課におかれては学校長への通達にも多くのご心労をおかけしたものと推察いたします。

また、令和元年度の教育に関する事務点検及び評価も、点検評価会議において適切に自己採点評価がなされていると適正な判断も受け、とりわけ評価基準について、評価区分の記述の見直し、評価区分の推移、項目の追加で、達成レベルの経年変化の視点が市民にわかりやすくなったと評価されたこともうれしく感じております。惜しむらくは、多くの所轄の課がかかわる各年度の事務点検及び評価で難しいこととは考えますが、半期程度で検証可能な方策だけでも進捗状況の共有ができれば、期間での課題検討及び再対策もできるのではないかと考えます。

さらに、8月20日には、令和2年3月に策定されました新枚方市教育大綱を受けての平成28年度策定の枚方市教育振興基本計画、期間12年での4年目の見直し案が示され、4章構成の第2章の2「枚方市における教育の主な取組と課題」で、先の教育振興基本計画の成果や課題が確認され、またさらに、第4章の「めざすべき教育を実現するために」の新教育大綱での今後4年で進める重点的取り組みも5点にて明示され、結果、基本計画の本文が19ページから25ページと増えましたが、市民や教育にかかわる現場の職員の皆様にも非常にわかりやすい具体的指針が示され

たものと考えます。

現時点では、パブリックコメントも終了している段階かと推察いたしますが、この策定につきましては非常に多忙な折に、担当課の皆様を中心に各部署への調整、文言の修正を重ねていただいたことに、重ねて御礼申し上げます。

長引くことを想定せざるを得ないこのコロナ禍で、4月17日付で教育評論家の尾木直樹氏が自身のブログで、「臨時休校措置のもとで日本の教育はオンライン授業の整備は喫緊の課題で、世界の落ちこぼれ」と訴えておられたのが印象で、記憶に残っております。

しかしながら、今年度中に本市においては、小学校6年生、中学校3年生から順次タブレットを全員配布と環境整備は完了する予定であり、ニュースでも枚方市、あるいは鎌倉市などが取り上げられ、注目度は非常に高いものでもあります。ICT環境、ハード整備の進行中、重要なのは授業改善への利用方法、あるいは家庭学習での活用等含め、ソフトの確立、指導体制の充実は言うまでもなく、現在教育指導課においてICT推進グループを設置いただき、教育研修課とともに取り組んでいただいております。過日、8月28日に参加させていただいた情報教育推進チームのコアメンバー研修及び臨時校長会を同時に行い、校長先生方にはまず自校での取り組みイメージを具体的に感じていただき、アクションプランの策定のスタートを切っていただいたことは今後の推進に大きく寄与するものと感じています。

指導助言で、園田学園女子大学の堀田教授より、「校長先生の一言でその学校の取り組みは変わる」は印象に残っており、子どもたちの年齢に応じたICT教育があり、特に機器の扱いでの1分間でのキーボード入力字数の世界比較での日本の教育の課題を示され、小学校低学年から入力のゲームなどの実施等、課題解決方法なども助言しておられたことが非常にありがたく、拝聴させていただきました。

また、資料の配布を受けた個別最適化で子どもを伸ばす岐阜聖徳学園大学、玉置崇教授の特集記事の中、心の天気で心の変化が見える化のご意見の中では、生活指導に生かすICTを提案されており、授業の中だけではなく、日常生活でも使う必要を文中で述べられておられ、低学年の小学校1年生にでも、晴れ、くもり、雨、雷の選択と、アイコンタッチという非常にシンプルな操作から教員が子どものその日の心の変化を見とることができ、子どもからのサインに気づきやすくなり、声かけのきっかけになるとも述べられておられます。

現在、コロナ第2波は終息の方向に一定向いてきておりますが、いつ何時第3波が来るやもしれず、当面この状況下での子どもたちの学習を保障することが義務教育には大きく期待されております。

学校にさまざまな理由で来れない生徒たちを、あるいはご家庭の事情で学習環境が整いにくい生徒たちへのICTでの学習機会を担保できることを強く期待いたします。

小中義務教育での活用を、枚方市では試験運用から課題も検証し、既に全校での実質運用へと入ろうとしております。当市の教育インフラが大きく子どもたちの学習成果につながることを、また新しい学びの形態の構築に向けて期待いたします。

世界に目を向け、OECD2018年度調査では、枚方市教育振興基本計画見直し案の中でも触れられておりますが、学校外での平日のデジタル機器の学習利用の割合は、日本が18.4%、OECD

D平均は66.3%で最下位です。トップのマカオ87.9%、香港80.3%となり、遊び利用ではほぼ毎日、あるいは毎日という比率が47.7%は、この数字ではOECDの中でトップと皮肉な調査結果が出ております。ICTを使っての学習におもしろみを感じさせる低学齢期での興味づけや工夫で習慣がつくと、飛躍的に学力が向上するチャンスも含んでいるものと考えます。調べ学習にはやはり検索語句の語彙力も必要で、パソコンのローマ字入力でのQWERTY配列も、園田学園女子大学堀田教授の言われる、やはり慣れが必要でもあります。

結びに、8月30日、大阪府教育センターにて、大阪府公立小学校任期付民間校長の3次選考面接に行かせていただきました。その選考論文の一つに、貧困から子どもたちを救うと述べられている一節を書いておられる方がおられ、要点を質問させていただきました。ご自身が幼少期に不遇ではあったか、今の自分は教育に助けられたと、また教育に直接かかわる仕事にかかわりたかったとの趣旨を述べておられました。

教育に携わる者として、子どもたちが将来に夢と志を持って可能性に挑戦できる教育を、この困難な時代にこそ、充実した枚方の教育構築を目指してまいりましょう。

以上、所感といたします。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、本日の協議会の案件は以上となりますので、協議会を終了します。